2022. 09.11(日)、12(月)　　布目麻矢　主事

＜　大胆に生きる道　＞

ヨハネ 14:1-7

「わたしを信じていれば大丈夫。」という言葉で始まる主イエスの「別れの説教」

「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。」
（ヨハネ 14:1）

最近、旧統一教会が、キリスト教系カルトとか、キリスト教系の新宗教と呼ばれて、まるでキリスト教の一派のように思われてしまう。

- キリスト教系　：　聖書を経典の一つとして挙げているための分類
- 異端　：　聖書を軽視し、聖書を自分勝手に解釈する別の経典を持つ。キリスト教ではない。
  旧統一教会「原理講論」、エホバの証人「新世界訳聖書」、モルモン教「モルモン書」
- カルト　：　教えの内容より人を取り込む方法や団体のあり方を指す。
  情報、感情、思考や行動をコントロールして集団の教えの中だけで考え行動させる。

大切なのは、イエス・キリスト。
イエス・キリストを人となられた神、救い主として信じ受け入れること。

「わたしがどこに行くのか、その道をあなたがたは知っています。」

トマスはイエスに言った。「主よ、どこへ行かれるのか、私たちには分かりません。どうしたら、その道を知ることができるでしょうか。」

イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことは出来ません。あなたがたがわたしを知っているなら、わたしの父をも知ることになります。今から父を知るのです。いや、すでにあなたがたは父を見たのです。」

（ヨハネ 14:4-7）

確かな道が分からないところで、私のうちに与えられた道となってくださった主イエス様は、
私たちが絶望せずにいられない暗闇の中に差し込む光でもある。

「わたしの敵よ、わたしのことで喜ぶな。たとえ倒れても、わたしは起き上がる。たとえ闇の中に座っていても、主こそわが光。」（ミカ書 7:8　新共同訳）

ルター）　イエス・キリストを信じた自分には、「私の信仰」とか「私の愛」と言えるものはない。
　ただ、信仰や愛のあるべき場所に、私はイエス・キリストを持っている。イエス様が与えられている。